

ヲ若シ議論アリトセハ此ノ方ニ依ルコト安
全ナリ而シテ本案ノ内容ハ前勅令ト同様ナ
リト云フカ故ニ本案ニハ此ノ儘賛成スル積
ナリ尚本案ニ關聯シテ前年来此ノ特別措置
實施ノ結果等ヲ質問スレハ是レ亦其ノ餘地
アルヘキモ今ハ之ヲ止メ大廳書記官長ノ報
告ノ通り可決セラレムコトヲ希望ス
十四番(伊東) 賛成
二十番(金子) 賛成
議長(清浦) 別ニ御議論ナク又本案ハ簡單明瞭

ナルニ付讀會ヲ省略シテ採決セム原案賛成
ノ諸君ノ起立ヲ請フ
多數可決(富井) 顧問官起立セス
内閣及各省ノ説明員退席
○
波多野宮内大臣及倉富説明員著席
○
議長(清浦) 次ニ皇族ノ降下ニ關スル内規ノ件
ヲ議題トス本案ニ付テハ審査委員會ノ修正
アリ先例ニ依リ其ノ修正シタルモノヲ以テ

原案ト為ス第一讀會ヲ開キ議案ノ朗讀ヲ省
略シ直ニ審査報告ヲ求ム

十四番(伊東) 各位閣下

今回御諮詢ノ皇族ノ降下ニ關スル内規ノ件
ニ付本官等審査委員ノ任ヲ拜シ本月十日及
十一日ノ兩日ヲ以テ委員會ヲ開キ宮内當局
ノ説明ヲ聽キテ慎重查覈ヲ遂ケ茲ニ其ノ結
果ヲ各位閣下ニ報告スルノ光榮ヲ負フ本案
ハ屬クモ皇族ノ御身位ニ關スル規定ニエテ
事態甚タ重大ナルカ故ニ其ノ考查ヲ盡スニ

當リ本官等ハ微力ナカラ寸毫ノ遺漏ナキコ
トヲ專念トシタルハ各位閣下ノ御諒承ヲ請
フ所ナリ

恭テ按スルニ皇室典範第三十一條ノ明文ニ
依レハ皇子ヨリ皇玄孫ニ至ルマテ四世ノ間
男ヲ親王、女ヲ内親王トシ五世以下男ヲ王、女
ヲ女王トシ宗室ノ子孫ハ百世ノ皇族タルモ
ノトシテ家制ヲ定メラレタルナリ然レトモ
皇族支胤ノ繁盛ニ伴ヒテ皇室經費ニ無限ノ
膨脹ヲ来シ且皇族ノ範圍廣大ニ流ルルカ為

時ニ或ハ不祥ノ事例ヲ醸スコトナキヲ保セ
ス是レ恐レナカラ 先帝陛下ノ深ク軫念ア
ラセラレタル所ニシテ即チ適宜疏通ノ道ヲ
開キテ皇室ノ根幹ヲ鞏固ニシ其ノ尊嚴ヲ保
持スルノ趣旨ニ基キ曩ニ明治四十年二月十
一日勅定ノ皇室典範増補第一條ニ於テ王ハ
勅旨又ハ情願ニ依リ家名ヲ賜ヒ華族ニ列セ
シムルコトアルヘキ旨ヲ規定セラル而シテ
此ノ明條ニ依リ王ヲ臣籍ニ降下セシムルコ
トハ一ニ箇々ノ場合ニ溢ヒ成規ノ手續ヲ經

テ 睿慮ノ裁定ニ給フ所ニ從フヘキコト論
ヲ俟タスト雖豫ノ運用ノ準則ヲ制定シ之ニ
依據シテ施行スルヲ常例トセラルニ於テ
其ノ時々ノ措置常ニ平衡ヲ失ハス彼此ノ間
故ナク軒輊ヲ生スルノ弊ナキコトヲ得ヘシ
然ルニ典範増補勅定以來年所ヲ經ルコト十
有餘年ニシテ未タ嘗テ勅旨ニ依リ王ヲ臣籍
ニ降下セシメタル事例アラズ為ニ典範増補
ノ明條ハ行ハレサルニ存スルノ觀ヲ呈スル
ニ至リタルモノ職トシテ其ノ施行ノ準則ナ

明治
憲法
附屬

キニ由ルト謂フヲ妨ケス即チ典範増補ノ明
條ヲ承ケテ更ニ運用ノ常規ヲ定ムルハ畢竟
聖意ヲ奉行スルニ於テ遺憾ナキヲ期スル
ノ途ナリ是レ實ニ本案ヲ以テ皇族ノ降下ニ
關スル内規ヲ設ケハトスル所以ナリトス
今本案各條ノ要旨ヲ摘示スレハ大要左ノ五
點ニ歸著ス

(一)王ノ降下ハ勅旨ト情願トノ二途アルモ情
願ニ依ルヲ以テ寧ロ本則ト為ス故ニ王カ
皇族身位令第二十五條ニ定ムル年齢ニ達

シタル後情願ヲ為ササルトキハ長子孫ノ
系統四世マテヲ除クノ外勅旨ニ依リ臣籍
ニ下レ家名ヲ賜ヒ華族ニ列ス(第一條)之ヲ
約言スレハ王ハ皇玄孫ノ長子孫ノ系統四
世マテ即チ天皇ヨリ八世マテ各世一人ニ
限リ皇族ノ班列ニ留メテ尊榮ノ身位ヲ保
タレノ其ノ他ノ王ハ總テ臣籍ニ降下セシ
ムルヲ以テ常則ト為スナリ
而シテ皇玄孫ノ長子孫ノ系統ヲ定ムルニ
付テハ長幼嫡庶ノ別ニ依リ一二典範所定

ノ皇位繼承ノ順序ニ從フ(第二條)

(一) 皇玄孫ノ長子孫ノ系統三世マテノ王自己

ノ子孫ナクシテ父祖ニ先チ薨去シタル場

合ニ於テ兄弟タル王アルトキハ該王及其

ノ系統代ハリテ皇族ニ留マルモノトス其

ノ王數人アルトキハ皇位繼承ノ順序ニ從

ヒテ故王ニ代ハルモノヲ定ム(第三條前段)

長子孫ノ系統四世ノ王自己ノ子ナクシテ

父祖ニ先チ薨去シタル場合モ亦此ノ規定

ニ準レ兄弟タル王皇族ニ留マル(同上後段)

(三) 皇玄孫ノ長子孫ノ系統四世マテノ王重大

ノ事故アルトキハ該王及其ノ子孫ヲ臣籍

ニ降下セシメ子孫庶子孫等ノ系統ヲ以

テ之ニ代ヘ皇族ニ留マラシムルコトアル

ヘシ此ノ場合ニ於テハ皇族會議及樞密願

問ニ諮詢シタル後之ヲ勅裁ス(第四條)

(四) 皇室典範第三十二條ノ明文ニ依レハ天皇

支系ヨリ入テ大統ヲ承クルトキハ皇兄弟

ノ王タル者ニ特ニ親王ノ號ヲ宣賜セラル

宣賜親王ハ其ノ身位固ヨリ王ニ外ナラサ

ルモ天皇近親ノ故ヲ以テ之ヲ皇玄孫ニ擬
シ其ノ子孫ニ本系第一條乃至第四條ノ規
定ヲ準用スルモノトス(第五條)
(五)現在ノ宣下親王及王ニ付テハ従前顯榮ノ
地位ヲ保有セラレタル事跡ニ考ヘ直ニ其
ノ本来ノ血脈ニ照ラシテ一時直截ニ本系
ノ規定ヲ適用スルコト事情ニ於テ忍ヒサ
ル所アリ即チ現在ノ宣下親王及現ニ宮
ヲ有スル王ハ何レモ皇玄孫ノ長子孫ノ系
統ニ在ル者ニ擬シテ當然之ヲ皇族ニ留メ

其ノ子孫兄弟及兄弟ノ子ニ本系ノ規定ヲ
準用ス而シテ右ノ親王及王ハ悉ク故邦家
親王ノ出ニ係ルカ故ニ同親王ヲ以テ基本
ト爲シ其ノ子ヲ第一世トシ以下實系ニ依
リテ世數ヲ算ス(附則第一項)此ノ世數計算
ニ關スル特則ハ前記各親王及王ノ系統ニ
於テ皇族ニ留マル者遠近均衡ヲ失ハサラ
シムルノ旨意ナリ
博恭王ハ本系ノ適用ニ於テ本来貞愛親王
ノ長子孫ノ系統ニ在ルモノニ非サルモ特

ニ長子孫ノ系統ニ在ルモノト看做ス(附則
第二項)是レ先帝陛下御在世ノ砌貞愛親
王ノ御哀願ニ依リ特ニ聽許セラレタル所
ナリト反聞ス又現ニ宮務ヲ有セサル王ハ
附則第一項ノ規定ニ依リ皇族ニ留ノラル
ル者ヲ除クノ外本條規定ノ適用ヲ受ケ臣
籍ニ降下セラルハキモ獨リ邦芳王及
多嘉王ノモハ特ニ之ヲ除外セラ皇族ニ留
ム(同第三項)是レ共ニ當該ノ王ニ属スル格
段ノ事情ヲ斟酌スルニ出ツルモノナリ

以上カ本條ノ内容ノ要旨ナリ而セラ本條ノ
性質如何即チ皇室典範増補ト本條トノ關係
如何ヲ審究スルニ本條ハ何等新規ノ主義ヲ
規定セタルモノニ非ス又固ヨリ典範増補ノ
趣旨ニ矛盾スルモノニ非ス唯典範増補第一
條ニ王ハ勅旨ニ依リ臣籍ニ降下セシムルコ
トアルヘキ旨ノ明條アルニ基キ之ヲ實際ニ
施行スル際常例トセラ準據スヘキ大體ノ規
矩ヲ示スモノタリ故ニ特殊ノ事情アル場合
ニ對シ固ヨリ終始一律ヲ以テ揆シ難キハ止

ムヲ得サル所ニ属ス乍併王降下ノ事業ニ就
テハ一々皇族會議及樞密顧問ノ諮詢ヲ経テ
勅定セラルハキコト言フ須ヒス其ノ箇々ノ
場合ニ於テ大體本案ノ規定ニ準據シ且事態
ノ緩急ニ應ヒテ其ノ宜シキヲ裁酌人ヘキモ
ノナリ從テ本案ノ性質ハ常例トシテ準據人
ヘキ大體ノ準則ナリ此ノ性質論ニ付テハ宮
内當局ニ於テモ亦同一ノ見解ヲ持トル旨ヲ
表明セラレタリ
本案ノ内容及性質右ノ如シ今日ニ於テ本案

ヲ立定フルハ寧ロ事宜ニ適スルノ措置タル
ヲ失ハス其ノ規定モ亦大體ノ趣旨ニ於テ允
當ノ制ト謂フヲ妨ケサルナリ仍テ本官等ハ
本案ノ大體ニ付賛成ノ意ヲ表シタリ乍併其
ノ細目ニ至リテハ二三ノ修正ヲ加フルコト
必要ト認ノタリ其ノ事項左ノ如シ
一) 名稱ノ修正

本案ハ内部ノ規程ナルカ故ニ原案ニ之ヲ
内規ト稱スルコト必シモ不可ナラサルモ
其ノ性質ハ典範増補ノ施行ノ準則ニ外ナ

ヲサルカ故ニ形式ヲ取ルヨリモ寧ロ實情
ニ於テ此ノ意義ヲ明徴ニスル爲之ヲ施行
準則ト名クルコト更ニ可ナリ是レ本案ノ
名稱ニ修正ヲ加フル所以ナリ

(二) 第三條ノ修正

原案皇玄孫ノ四世ノ長孫父祖ニ先チテ薨
去レタル場合兄弟タル王ヲレテ之ニ代ハ
ラシムルハ其ノ長孫ニ子ナキトキニ限ル
是レ主トシテ四世ノ長孫ノ夭折ノ場合ニ
處スルノ途ニシテ其ノ長孫ニ子アルトキ

ハ既ニ成人ノ年齢ニ達シタルモノナルカ
故ニ其ノ薨去ニ因リテ四世ノ系統ヲ終ラ
シムルコト至當ナリト爲スノ意ナリ此ノ
趣旨固ヨリ排斥スヘキニ非ス從テ更ニ之
ヲ推擴シテ故長孫ノ子先ツ歿シ其ノ子孫
存スルトキモ亦兄弟タル王ヲレテ之ニ代
ハラシメサルコト事理ノ當然ナリ仍テ本
條前段長子孫ノ系統三世以上ニ在ル者ト
アルヲ同四世以上ニ在ル者ト改メ本條後
段ヲ削ルコト可ナリ

(三) 第四條ノ削除

原案皇玄孫ノ長子孫ノ系統四世マテノ者
重大ノ事故アルトキハ之ヲ臣籍ニ降シ他
ノ系統ヲ以テ之ニ代フルコトアルヘキモ
ノトス然ルニ長子孫ノ系統ニ在ル者ノ事
故力典範増補第四條ニ依リ之ヲ臣籍ニ降
スノ程度ニ達セサルトキ其ノ事故アルノ
故ヲ以テ同第一條ニ依リ之ヲ臣籍ニ降ス
コトアルヘキ旨ヲ定ムルハ全ク不要ニ属
ス殊ニ其ノ王降下ノ結果典範増補第三條

ノ規定ニ從ヒ其ノ子孫當然相率ヒテ臣籍
ニ下ルノ事實ヲ生スルコトニ想到セハ右
本案ノ條項ハ到底妥當ノ制ト爲スヘカラ
サルコト知ルヘキナリ又長子孫ノ系統ニ
在ル者剝權降下ノ場合典範増補第四條ノ
規定ニ依レハ其ノ子孫ハ尚皇族ニ留マル
モ本案ニ於テハ其ノ子孫ヲモ同第一條ニ
依リ併セテ臣籍ニ降スコトアルヘキモ
トス父祖剝權ヲ受ケタルノ故ヲ以テ子孫
モ亦降下セシメラルコト甚タ不穩當ノ

制ナリ又長子孫ノ系統ニ在ル者ニ子孫
キ場合ヲ考フルニ其ノ王事故ナクシテ
去スルトキハ自ラ其ノ系統斷絶スルノ外
ナキニ其ノ王事故アリタルトキハ却テ他
ノ系統ヲ以テ之ニ代フルコトト為リ彼是
、場合ヲ對比スルニ甚タ不權衡ナリ即チ
本案第四條ハ之ヲ削除スルコト可ナリ

四) 字句ノ修正

原案第一條及第三條ニ系統三世、四世以上
ト言フハ一世乃至三世、四世ノ謂ナリ之ヲ

系統三世、四世以内ト言フニ於テ其ノ意遙
ニ明晰ナリ是レ該條ニ字句ノ修正ヲ試ミ
ル所以ナリ

以上四點ノ修正ニ付テハ宮内當局ニ於テ別
ニ異議ナキ旨ノ言明ヲ得委員會ニ於テハ前
記數點ノ修正ヲ附レテ本案ヲ可決スハキモ
ノト全會一致ヲ以テ決議シタリ

本案ノ内容ニ付尚詳細ノ御質問アラハ幸ヒ
茲ニ宮内當局ノ出席アリ質問ニ應レテ十分
答辯セラルヘシ

右審査ノ結果ヲ報告ス

波多野宮内大臣 本業ニ付テハ唯今審査委員

長ヨリ詳細ノ御報告アリ重ネテ余ヨリ申述

フル必要ナレ若レ各條ニ付御質問アラハ倉

富説明負ヨリ答辯スヘシ

抑本業ハ典範増補第一條ノ施行準則ナリ所

謂内規ニシテ固ヨリ公布スヘキモノニ非ス

乍併本業ハ苟クモ皇族ノ御身位ニ關スル重

要ノ事案ナルカ故ニ特ニ本院ニ御諮詢アリ

タル次第ナリ就テハ十分御審査ノ上可決ア

ラムコトヲ希望ス尚本業ニ對スル委員會ノ

修正ニハ總テ同意ヲ表シタリ

二十番_(金子) 本業ニ付テハ委員長ノ報告ヲ熟

讀シ且唯今御説明ヲ聴取シ明瞭ニ諒解セリ

而シテ宮内大臣ヨリ委員會ノ修正ニ承諾ノ

旨御辯明アリ仍テ本業ハ讀會ヲ省略シ直ニ

可決アラムコトヲ希望ス

議長_(清浦) 別ニ御議論ナク且唯今二十番ヨリ

讀會省略ノ發議アリ議會ヲ省略シテ直ニ採

決セム原案賛成ノ諸君ノ起立ヲ請フ

（全會一致可決）

午前十一時二十五分開會

副議長子爵清浦奎吉

書記官長ニ山本

書記官

清水澄

村上恭一

朕茲ニ緊急ノ必要アリト認ノ樞密顧問ノ諮詢ヲ經テ帝國憲法第八條第一項ニ依リ大豆、生牛肉、鳥卵、綿織絲及綿織物ノ輸入税ノ低減又ハ免除ニ關スル件ヲ裁可シ之ヲ公布セシム

御名 御璽

年月日

内閣總理大臣

各省大臣

勅令第 號

政府ハ當分ノ内勅令ヲ以テ期間ヲ指定シ大豆

生牛肉、鳥卵、綿織絲及綿織物ノ輸入税ヲ低減又ハ免除スルコトヲ得

附則

本令ハ大正八年勅令第四百七十八號失效ノ日ヨリ之ヲ施行ス

朕茲ニ緊急ノ必要アリト認メ樞密顧問ノ諮詢ヲ經テ帝國憲法第八條第一項ニ依リ獨逸國等ニ屬スル財産管理ノ件ヲ裁可シ之ヲ公布セシム

御名 御璽

年 月 日

内閣總理大臣

各省大臣

勅令第 號

第一條 政府ハ獨逸國、奧地利、洪牙利國若ハ土

耳其國ニ屬シ又ハ其ノ國人若ハ法人ニ屬ス

ル財産ヲ管理スルコトヲ得

第二條 政府ハ前條ノ財産ノ所有者、保管者其

ノ他關係者ニ對シ其ノ財産ノ所在、種類、數量

價額、權利狀態其ノ他管理ニ必要ナル事項ノ
申告ヲ命スルコトヲ得

第三條 當該官吏又ハ吏員ハ第一條ノ財産ニ
關シ調査ノ為必要ナル場所ニ立入り若ハ檢
査ヲ為シ又ハ其ノ財産ノ所有者、保管者其ノ
他關係者ニ對シ調査資料ノ提供ヲ命シ若ハ
供述ヲ求ムルコトヲ得

第四條 第一條ノ財産ノ管理ハ當該官廳ノ管
理命令ヲ以テ之ヲ開始ス
管理命令ヲ為シタルトキハ之ヲ告示ス

第五條 當該官廳ハ管理財産ニシテ登記又ハ

登録ノ規定アルモノニ付テハ管理財産タル
旨ノ登記又ハ登録ヲ關係ノ官廳其ノ他ニ囑
託又ハ請求スヘシ

當該官廳ハ管理財産債權ナルトキハ管理財
産タル旨ヲ債務者ニ通知スヘシ
前二項ノ規定ニ依ル手續ヲ為スヘキ財産ノ
管理ハ登記若ハ登録又ハ通知アルニ非サレ
ハ之ヲ第三者ニ對抗スルコトヲ得ス
第六條 前二條ノ規定ハ財産ノ管理ヲ終了ス

ル場合ニ之ヲ準用ス

第七條 當該官廳ハ管理財産ノ所有者又ハ保

管者ニ對シ其ノ引渡ヲ命スルコトヲ得

第八條 管理ニハ財産ノ換價其ノ他ノ處分ヲ

包含ス

政府カ擔保權ノ目的タル管理財産ヲ換價シ

タルトキハ擔保權ハ代金ノ上ニ存在ス此ノ

場合ニ於テハ其ノ代金ハ別ニ之ヲ保管スヘ

シ

第九條 第一條ノ國、國人又ハ法人ハ其ノ者ニ

属スル管理財産ニ關シ處分其ノ他ノ行為ヲ

為スコトヲ得ス

第十條 管理財産ハ管理ニ依リテ生シタル權

利ニ基ク場合ヲ除クノ外民事上ノ強制執行

又ハ競賣ヲ為スコトヲ得ス

第十一條 財産ノ管理ニ要スル費用ハ本人ニ

属スル管理財産ヲ以テ之ヲ支辨スルコトヲ

得

第十二條 財産ノ管理ヲ免ルルノ目的ヲ以テ

財産ノ隱匿、處分、毀棄ヲ為シ若ハ為サントス

ル行為アリタル者又ハ情ヲ知りテ其ノ處分ヲ受諾シタル者ハ三年以下ノ懲役又ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第十三條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ三月

以下ノ懲役若ハ百圓以下ノ罰金又ハ拘留若ハ科料ニ處ス

一 第二條ノ規定ニ依リ命セラレタル申告ヲ為サス又ハ虚偽ノ申告ヲ為シタル者

二 第三條ノ規定ニ依ル當該官吏又ハ吏員ノ職務ノ執行ヲ拒ミ妨ケ若ハ忌避シ、調

査資料ノ提供ヲ為サス若ハ虚偽ノ調査資料ヲ提供シ又ハ供述ヲ拒ミ若ハ虚偽ノ供述ヲ為シタル者

三 第七條ノ規定ニ依ル引渡ノ命令ニ應セ

サル者

附 則

本令ハ大正八年勅令第三百四號失效ノ日ヨリ之ヲ施行ス

皇族ノ降下ニ關スル内規施行準則

第一條 皇玄孫ノ子孫タル王明治四十年二月
十一日勅定ノ皇室典範増補第一條及皇族身
位令第二十五條ノ規定ニ依リ情願ヲ為ササ
ルトキハ長子孫ノ系統四世以上以内ヲ除ク
ノ外勅旨ニ依リ家名ヲ賜ヒ華族ニ列ス
第二條 前條ノ長子孫ノ系統ヲ定ムルハ皇位
繼承ノ順序ニ依ル
第三條 長子孫ノ系統三世以上四世以内ニ在
ル者子孫ナクレテ父祖ニ先テ薨去レタル場
合ニ於テ兄弟タル王アルトキハ其ノ王皇位

繼承ノ順序ニ從ヒ之ニ代ルモノトス四世ノ
長孫子ナクレテ父祖ニ先テ薨去レタル場合
亦同シ
第四條 長子孫ノ系統四世以上ニ在ル者重大
ノ事故アルトキハ他ノ系統ヲ以テ之ニ代フ
ルコトアルヘシ
前項ノ場合ニ於テハ皇族會議及樞密顧問ニ
諮詢レタル後之ヲ勅裁ス
第五條 前數條ノ規定ハ皇室典範第三十二
條ノ規定ニ依リ親王ノ薨ヲ宣賜セラレタル

皇兄弟ノ子孫ニ之ヲ準用ス

附則

此ノ内規準則ハ現在ノ宣下親王ノ子孫現ニ宮
號ヲ有スル王ノ子孫竝兄弟及其ノ子孫ニ之ヲ
準用ス但レ第一條ニ定メタル世數ハ故邦家親
王ノ子ヲ一セトレ實系ニ依リ之ヲ算ス
博恭王ハ長子孫ノ系統ニ在ルモノト看做ス
邦芳王及多嘉王ニハ此ノ内規準則ヲ適用セス